

聖稜だより

令和4年
秋号



発行者：医療法人社団 聖稜会
責任者：理事長 宮津 巖
発行日：令和4年11月17日

病院機能評価受審に向けて

病院機能評価取得委員会委員長
副院長 関谷 洋

今回、当院は諸々の事情により病院機能評価を受審することになりました。

①患者中心の医療の推進、②良質な医療の実践、③合理的かつ統一的な組織運営等の項目についてリハビリテーション病院の全国水準で評価して今後の改善に繋げるというのが病院機能評価受審の本来の目的ですが現実的には経営戦略面での受審が最大の理由です。

病院の診療収入に重要な診療報酬改定が2年毎にあり、国(厚労省)は高騰する医療費削減のためハードルを上げる方針で今年の診療報酬改定では現状の回復期Ⅰの入院料算定にあたり病院機能評価の認定が望ましいとし、次回(2024)改定では病院機能評価の認定が必須となることが想定され、受審しないと当院は回復期Ⅰの施設基準が満たされず減収となり病院経営が厳しくなるため必要に迫られて受審するに至りました。

すでに受審の申し込みが終わり2024年2月に最終の訪問審査受審が決定し各部門での準備が進行中です。訪問審査では診療・看護・事務の各領域専門の評価調査者(サーベイヤー)複数人で病院にやって

きて2日間かけて約90の項目についてS/A/B/Cの4段階評価します。すべてがB以上の評価で一定の基準を満たすということで合格となりますがC(一定の水準に達していない)判定が1つでもあればその項目について改善を要求され、その改善が不十分であれば不合格となります。

問題は、訪問審査に行き着く前に書類審査があり病院の関連資料・書類をすべて訪問審査の数か月前に提出しなければなりません。内容としては病院の概要、診療実績、各種会議・委員会・カンファレンス一覧、各種マニュアルなど詳細で膨大な量の書類が必要となり、それも病院内全体で周知・統一されかつ共有されていることが必須となり院内職員全員のご協力をお願いしなければなりません。

受審準備は質的にも量的にも大変ですがこの取り組みを経験することにより院内における多職種間の相互理解・連携が強化され、業務改善に繋げることが可能となるかと考えます。

みなさん、ご協力をよろしくお願いいたします。



令和4年度入職者の声



看護師 岡田彩乃さん

10年程前にも当院で働いていました。またこうして働くことが出来てうれしいです。早く慣れて、患者さんに寄り添った看護が出来るよう頑張ります。

看護師 萩原まりのさん

5月16日付けで入職しました。萩原まりのです。1日でも早く仕事に慣れて、戦力となれるように頑張りますので、ご指導のほどよろしくをお願いします。

ケアワーカー 松本千世子さん

約6年ぶりに帰ってきました。再びこちらで働ける事をうれしく思っています。離れていた間の経験も活かして精一杯頑張りますので、よろしくをお願い致します。

看護師 小関希さん

私は5月に入職しました。かなりブランクがあったため、とても緊張していましたが、師長さんをはじめ先輩看護師の皆さん、ケアワーカーさんが一つ一つ丁寧に教えてくださり、本当にいつも助けて貰っています。

点滴などの手技においても不安があると一緒について指導して貰っています。頻回に声を掛けて貰い色々なことを聞きやすく、とても心強くて安心して働くことが出来ています。リハビリ病院の勤務は初めてなのですが、経管栄養で食事をとられていた患者様が日々、リハビリに励み徐々にご自分で食べられるようになっていく姿を見てとてもうれしく思いました。

退院に向けて励ましの言葉かけなど精神的なケアとともに個別性のある看護を提供できるように頑張りたいと思います。

作業療法士 長池杏実さん

4月より作業療法士として当院に入職いたしました。当院の理念である、「あなたの『えがお』を大切にします。そして、地域との『きずな』をより深めます。」という理念は患者様とご家族様、そして地域への架け橋となるものであると感じ大変共感し入職を希望いたしました。また、当院は新人職員への教育制度も充実しており、一人ひとりにプリセプターの方がついて下さり丁寧なご指導をいただいております。作業療法士としてまだまだ未熟ですが、患者様に寄り添う作業療法士を目指し、臨床現場にて知識・技術を身に付けていきたいと思っております。宜しくをお願いいたします。

医事課 澁谷 奈津希さん

これまで医療事務の経験はありましたが、医療機関から離れていた期間や携わっていない分野が多く、先輩方に丁寧にご指導頂いております。1人でも多くの患者様の名前や顔を覚えて、円滑に業務が遂行出来るようにしていきたいです。その時々合った行動がスムーズになるように努力していきます。コロナ渦であまり会話をすることが出来ませんが、早く皆様に認識して頂けるように取り組んでいきます。まだまだ不慣れなことが多く、戸惑うことがありますが、笑顔で接することを心がけていきたいと思っております。



編集後記

今年度から「聖稜だより」はホームページ管理委員会から、それらしい広報委員会に委ねられました。本号は少しあわただしい中での発行で遅くなったことをお詫びいたします。